

問1 操法訓練の必要性について *訓練必要意見

- ・消防団員であるかどうかに関わらず知っておくべき知識ではあると思う。ただし訓練という言葉は好かない。体験で十分。実際に、そういう場に遭遇するということは現代ではほぼ無いのだから。
- ・有事の際は、訓練又は練習してないとできない。ただ、初期から対応する場面がないから、後方支援の訓練又は練習の方がいいかもしれない。
- ・これから訓練をする場所や時間に関して難しくなってくるのではと思っています。
- ・訓練をしていないと、いざ現場で全く何をしたら良いか分からないので日々の訓練は必要である
- ・機械器具の使い方は定期的に確認した方が良い。
- ・新人の訓練にとっても役立つ
- ・操法の代わりとなるものがない以上は必要。
- ・操法訓練をすることでチームワークが向上する。コミュニケーションの場にもなる。
- ・基本となる訓練なので訓練としては必要
- ・訓練は必要だが、大会は不要である。
- ・実際に火災が発生した際に迅速に活動ができる様に訓練は実施した方が良いと思う。
- ・所属している消防団のポンプ機械等は、災害時に使用できるように操作方法の確認、保守点検、メンテナンスを行っていく。
- ・消防団として、活動をしていく中で必要な事柄を、団員全員を対象として行うのが良いと思う。
- ・個人的には必要であると思うが、選手になると家族にも負担があるので工夫が必要だと思う。
- ・各分団でしっかり行えば良いと思う。
- ・通常訓練にて操法訓練は良いと思います。実際の現場でも各団員の行動がスムーズに行えております。これは、通常訓練の集大成が操法訓練だと思います。
- ・操作方法だけは、定期的に確認したい。
- ・機械器具の取り扱い、操作の手順を習得する為に操法訓練は必要だと思う。
- ・操法大会に出場前の練習が日常生活に影響をきたす。
- ・操法大会の様式でなくとも、消火活動の基礎となる部分に関しては普段から訓練しておく必要はあると思う。
- ・訓練については消防団員として最低限は必要である。
- ・団員全員が、すべてのパートの操法訓練を行い、速さは不要だが確実に操作が行えるようになるのは必要かと思う。訓練だけなら集まったついでに少しずつでもできると思う。
- ・採点方法を消防団員に教えてほしい。そして、どこが悪かったとか教えていただきたい。その後の反省材料になるので。
- ・操法の経験がないのでやってみたい。
- ・高齢なのでついていけない

- ・必要ではあるが、仕事の都合でなかなか合わないので賛成できない。
- ・練習が暑い時なのできつい。
- ・火災現場に必要な行動が出来るようになるため必要。
- ・器具取扱いや放水姿勢、ホース延長方法等、実際の火災現場で役立つ訓練は必要。
- ・操法訓練は各団でやるべき。
- ・講習会を開いて誰でも操作できれば。
- ・実際に火事がある時に必要なので月 1 回は訓練した方が良い。
- ・操法訓練をしているか、していないかで緊急時に大きく違う
- ・安全に配慮した操法は体験し習得していきたい。
- ・火災現場の実情に合った訓練を行なう方が良い。
- ・風水害・地震に対する訓練を積極的に行った方が良い
- ・訓練手当を目的に活動を行っている。(回数制限をする)
- ・必要だが、内容を見直して新操法訓練をしてはどうか。
- ・役割を決めて訓練しておくことは、いざという時に即対応できる。継続して訓練していないと忘れてしまう。
- ・全員が揃える意識、火災現場での統率、チームなので意識統一の目的なども含めて必要。
- ・消防隊の支援なので、本署の隊員と分団の隊員であることを分けて訓練を行なう。
- ・火災現場で実際にポンプを操作して放水する機会は少ないため、定期的な操法訓練は各分団でも全体でも義務付けても良いと思う。
- ・消火活動の基礎であり、各個訓練同様に必要。特に火災現場等、危険を伴う現場では指示系統を確実にするためには必要。
- ・操作手順や注意点を覚え、伝えていくことは必要だと思う。
- ・訓練は大事だが、時間がとられすぎかもわかりません。
- ・大会のための操法訓練ではなく火災現場を想定した操法訓練が良い。
- ・団員が一つの目標を達成するために全団員が協力し、皆の力が、思いが技術を向上させ、結果、分団の団結力ができる。優勝を意識しすぎて家庭を犠牲にしたり、職場に影響が出る過度な訓練は如何なものかと思う。回数が少なく楽しく身につく方法もあると思う。
- ・夏の訓練はえらい。秋にスタートしてほしい
- ・恒常的に向上心は保つ必要はある。
- ・全てのことを習得できるよう訓練回数を増やす。
- ・操法訓練にこだわらず自然災害時対応訓練も必要。
- ・入団して 4 年で出場しましたが、いい経験でした。平均週 2 回の訓練でしたが、仕事でのつりあいがあり、正直大変でした。
- ・消防団に入り操法訓練を通して基礎の訓練に役立ったので必要と思います。
- ・消防団員としてやるべき訓練です。
- ・操法は、消火活動（消防団の最も大切な活動）の基本であり、その動作の一つ一つを覚えておくことは必要と考えます。訓練でできないことは、実際の現場では絶対にできません。現場では、一般の市民やマスコミなど、通の方の目にさらされるため、無様な格

好を見せるわけにはいきません。市民に信頼されてこそ消防団だと思います。

- ・各分団で器具の取り扱いを教えていけるのであれば良いのですが。
- ・動作訓練はしないと、大会には参加できないと思う。
- ・消防団員として基本動作であると思う。過度な訓練ではなく、整列、人員数、目標物への指揮、機械の操作、資機材の取り扱いが集約された訓練だと思いますので、団員として最低限の基本を覚える必須過程だと思います。
- ・ある分団では操法訓練に対するパワハラ、操法に参加していない者へのいじめが横行していたと聞いている。
- ・現場で役立つような訓練に変更すべき
- ・形、順番が違ってても水が出せないと・・・
- ・技術レベル維持目的で良い
- ・経験は、少しは必要である。
- ・実際の現場と同じような行動ができるものなのか、疑問に思います。
- ・実際の出動で効果がある内容にするべき。現状は、競技に近いものになっている。
- ・訓練という形ではなく、器具操作や動作を習得できないか。
- ・大会に向けての訓練ではなく、実際の火災現場を想定した実践的な訓練や、基本動作の訓練等をやったほうが良いと思う。
- ・訓練がないとポンプの使い方がわからなかった。
- ・訓練の有り無しで有事の際の対応に差が出る。
- ・実際の現場で訓練の様な動作や掛け声ができるとは思えない。
- ・いざという時、火災の現場で役に立つ。
- ・訓練の時に、本署の人たちに教えてもらっているところもあるので、平等にしてほしい。
- ・ポンプの操作方法を覚えておくことで、消火活動に必要な時に役立つと思う。
- ・操法は、消火活動において、基本的なもので、指揮、規律、機械器具の取り扱い等は、しっかり訓練を通じて身に付けておくことが、団員の安全を確保するためにも重要。
- ・操法の経験が災害現場にも活かされている。
- ・操法訓練で得た経験は無駄ではなく、災害の現場で安心して任せられる存在となっている。
- ・操法訓練を通じて消防団員の現場での活動に対処できる技術を身に付けていただきたいです。
- ・新人さんにも技術を知ってもらうために操法訓練を知ってもらうのは良い と思うが大会までしなくても訓練で技術向上を全体的にしていく方が良い。
- ・技術的には必要な技術であると思うが、特定の団員だけになるのが不満だった。団員全体に 技術を向上させることが市民を守ることにつながるのでは。
- ・個人的には操法に参加し良い経験をしました。しかし、有事の際に、どのポジションを担っても誰もが抵抗なしに行動できるかが、日々の訓練であると思います。自己を高めるのであれば操法は賛成です。
- ・操作方法を習得するには必要だが、その成果の優劣を競う大会は不要。

- ・各分団の未経験者の方に経験してもらうために必要。
- ・資機材の取扱いを覚えるためにも必要。ただし人選について要検討。
- ・操法は全てが集約されている。全ての基礎が習得できる。
- ・消防活動をする上で団員一人ひとりが一連の流れを把握することが重要であるため、操法はそれが学べる。
- ・使い方を忘れないためにも、無くさない方がよいと考える。
- ・過去の団員が作り上げた絆を、今、コロナ禍であることを理由に必要で無いと、判断することはとても残念である。
- ・的確な操作を身に付けるには必要である。
- ・基本動作を身に付けるのには大切だ。実際の火災現場での活動において大切な動きも含まれている。現場で団員を負傷させないためにも必要だ。
- ・操法訓練は、現場で役立つと思うので賛成。ただし平日の夜間など、仕事の都合がつけにくいこともある。
- ・やりたい人の支援をするのは良いと思う。
- ・操法により分団同士の横のつながり、広域消防との連携が深まる。
- ・消防活動の基本動作を身に付けることができ、他の分団員とのコミュニケーションをとることで、組織（方面団、分団）活動が円滑に行える手段だと考える。
ただ、現状は操法をすることが目的になっているのではないかと感じる。
操法に対し、何が目的か、組織目標の明確化、組織全体の考えの統一を図り、今後取り組んでいく必要があると考えます。
- ・消防団が存在するのであれば誰もができるだけ消火活動できるような訓練は必要と考える。ただし、強制するものであってはならない
- ・大会前に訓練を行う部や団が大半であると思われるが、日常的に短時間の訓練を反復して行うことが重要であると考え。それにおける頻度・時間・内容等の指針を示してもらえれば、各地域でのばらつきを回避できると思われる。
- ・防火水槽から火点までが直線ではない。3名で放水を行う。などの、実際の現場を想定した内容を盛り込むことも有意かと思う。
- ・資器材（消防ポンプ等）の使い方を一連の流れの中で訓練するという意味では必要と感じる。
- ・操法訓練の内容については、今までと同じやり方ではなく検討の必要がある。
- ・スピードより確実性重視
- ・平日の仕事終わりに、練習など疲れているのでどうかと思う。家庭にも影響がでる。本業でないのにそこまでやる必要があるのかと思う。
- ・必要以上に熱が入りすぎるため団員の負担が多くなりがちです。選手以外にも関わる団員のことを考えると大会という競う形式をやめるべきだと思います。
- ・必要であるが、訓練方法は考えていかなければならない。